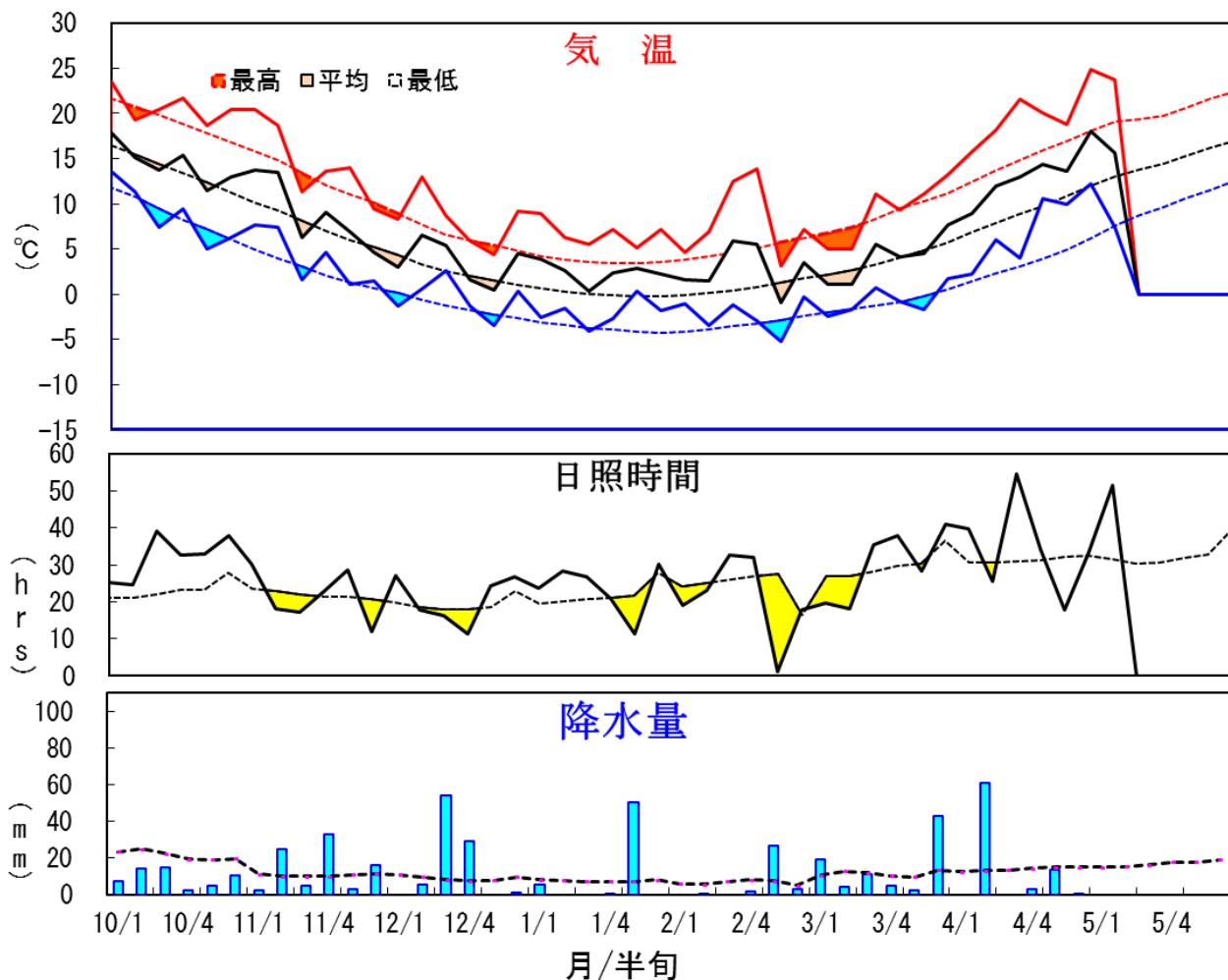


麦作情報第6号

令和6年 5月15日：JA全農みやぎ

大麦・小麦ともに 出穂は前年より更に早い 早めの収穫準備を！

1 これまでの気象経過



2 東北地方の1か月予報【5月11日～6月10日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・天気は数日の周期で変わる。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・気温は、高い確率 70%，平年並みの確率 20%，低い確率 10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率 40%，少ない確率 20%。
- ・日照時間は、多い若しくは平年並みの確率 30%，少ない確率 40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 05/11～06/10	10 20 70
		1週目 05/11～05/17	10 10 80
		2週目 05/18～05/24	10 10 80
		3～4週目 05/25～06/07	20 30 50
降水量	東北地方	向こう1か月 05/11～06/10	20 40 40
日照時間	東北地方	向こう1か月 05/11～06/10	40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 生育状況

(1) 古川農業試験場内 作況試験 出穂・開花状況（5月7日現在）

- ・大麦は、出穂期・開花期ともに平年より10日程度早く、生育が進んだ前年よりも数日早まっている。
- ・小麦も、出穂期・開花期ともに平年より9日程度早く、大麦同様に、前年よりも数日早まっている。
- ・4月に入ってから高温が続き、大麦だけでなく、小麦の出穂も前年より早まっている。

	品種・区分	出穂期			開花期		
		本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)
大麦	シュンライ 中旬	4/15	4/18	4/25	4/22	4/25	5/2
	同 下旬	4/19	4/22	4/29	4/25	4/30	5/7
	ミノリムギ中旬	4/19	4/22	4/29	4/25	4/27	5/5
	同 下旬	4/21	4/26	5/3	4/26	5/2	5/9
小麦	シラネコムギ中旬	4/26	4/27	5/5	5/5	5/9	5/14
	同 下旬	4/28	4/30	5/7	5/6	5/12	5/17
	夏黄金 中旬	4/26	4/27	5/6	5/5	5/9	5/14
	同 下旬	4/28	4/30	5/7	5/6	5/11	5/16

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注3) 出穂期: 全茎の40～50%が出穂した日(1茎については穂先が葉鞘から現れた時)。

注4) 開花期: 全穂数の40～50%が開花した日(1穂については数花開花を認めた時)。

4 今後の技術対策

(1) 収穫期の判定と作業計画

- ・出穂期から成熟期に達するまでの登熟日数は、大麦で出穂後約40日～45日、小麦では約45日～50日である。
- ・古川農業試験場の作況試験によれば、大麦は4月第4半旬に出穂しており、出穂後日数から推測すると、**5月第6半旬から6月第1半旬頃には成熟期に達すると見込まれる。**
- ・小麦は4月第6半旬に出穂しており、出穂後日数から推測すると、**6月第3半旬から第4半旬頃には成熟期に達すると見込まれる。**
- ・作況試験より出穂の早かった**県中部や県南部等の大麦では、5月下旬(21～31日頃)には成熟期に達するほ場もあると見込まれる。**
- ・成熟期の判断基準は、「茎葉及び穂首部が黄化し、粒はほぼロウぐらいの硬さに達した日」とされており、この時期の穀粒水分はかなり幅があるが、概ね32～45%である。
- ・収穫適期は、**成熟期から約3～4日後で、穀粒水分30%以下が望ましい**とされているが、降雨が見込まれる場合には、作業を早める必要がある。

- ・本年産の麦類は、前年より出穂期が早まったことから、成熟期・収穫適期も前年より更に早まると見込まれるので、収穫機械・乾燥機等の整備は、早めに済ませておく。
 - ・成熟期以降の麦は、晴天下では急激に乾燥が進む。特に、小麦は降雨後の子実水分が上がっても乾きが早く、一日に5%も低下することがある。**しかし、大麦は外皮があるため降雨にあたると水分の戻りが大きく、小麦より降雨による水分の変化に対する影響が大きい(下図参照)。**
- そのため、大麦は、降雨にあたるごとに品質低下が起きやすい。また、向こう1か月の降水量は多い確率が高いので、成熟期に達したら、なるべく早く収穫することが望ましい。

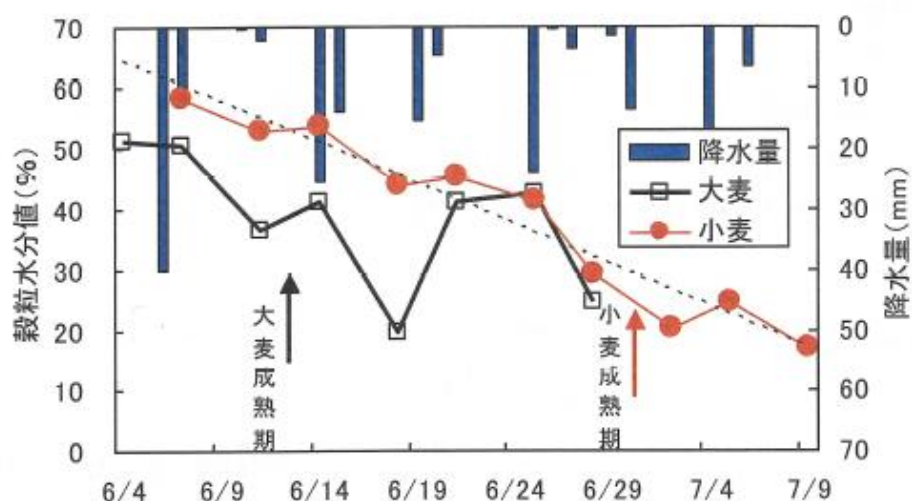


図 7-2 麦の成熟と穀粒水分経過 (2001 年古川農試)

※水分：105℃乾熱 大麦：シュンライ、小麦：シラネアザミ 採取時間：降雨時・直後を除く午前10時頃

(2) 収穫作業

- ・自脱型コンバインによる収穫では、水分が高いほど扱胴の回転数を下げなければならない。子実水分が30%以上の場合は、扱胴回転数を下げるためにエンジンの回転数を下げたり、稲用に変速したりする必要がある。
 - ・普通型コンバインによる収穫では、刈り取った麦体全量を扱室に投入する。自脱型コンバインより短程の麦や倒伏した麦への適応性は高いものの、土砂の混入等に注意が必要である。
- ◆フレコンでは詰込みが終了したら、直ちに入り口を縛り、害虫の侵入を予防する（気温が高めだと、害虫の動きもより活発になるため、フレコン内に侵入しやすくなる）。

(3) 乾燥調製

- ・水分30%以上の高水分麦を乾燥機に投入する際は、張り込み量を60~70%にする。
- ・大麦、小麦ともに、子実水分が30%以下になるまでは40~45℃と低めの送風温度とし、乾燥が進んで水分が30%以下になったら、通常の送風温度(50~60℃)に調節する。
- ・乾燥後は唐箕でごみなどを取り除き、米選機で選別する。網目は大麦・小麦とも2.4mm以上とし、子実水分は検査時点で大麦13.0%以下、小麦12.5%以下に調製し、高品質生産に努める。